

- 1 主題名 あたたかい ころろ
- 2 教材名 「とくべつな たからもの」 <出典：公文書院>
- 3 主題構成表

<p>■ 内容項目 B 親切、思いやり 身近な人に温かい心で接し、親切にすること。</p>	<p>■ 内容項目から見た児童の実態（意識）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの児童は、仲間が困っていると進んで声をかけることができる。 ・仲間が困っていることが分かっても手助けなどの行動に移すことができない児童がいる。また、自分本位に振るまい、相手のことを考えた行動ができない児童もいる。 <p>■ 意識の要因</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手のことを思いやって行動する大切さは理解しているが、自分のことを優先してしまったり、相手が困っていることに気付かなかったりするため。 	<p>■ 教材の分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くまが困っているねずみの子に出会い、自分にできることを一生懸命に考え、実行する話である。 ・自分が拾い集めた宝物を捨ててそのかばんにねずみを入れて助け出すくまの姿、かばんに一つだけ残っていたどんぐりを握りしめて「ありがとう」と言うねずみの子の行動や様子から、「助けずにはいられない心」や「親切でつながる温かい関係」「親切をしたときの達成感」など、思いやり・親切のよさをしみじみと感ずることができる。 ・親切にされた相手からの「感謝」の気持ちについても、考えることができる。
<p>ねらい</p> <p>大切な宝物を置いてまでねずみの子を助けるくまの想いを考えるを通して、親切にすると相手も自分も温かい気持ちになることに気づき、相手の気持ちに寄り添って行動しようとする態度を育てる。</p>		
<p>■ 研究内容に関わって</p> <p><Ⅱ-①価値への方向付けと問題意識を引き出す導入の工夫></p> <p>児童に取った事前アンケートの結果から本時の課題へとつなげることで、自分ごととして考えることができるようにする。</p> <p><Ⅱ-②多面的・多角的な考えや多様な感じ方を引き出し、人間理解、他者理解、価値理解、自己理解を促す発問の工夫と精選></p> <p>中心発問の前に役割演技を仕組む。くまがねずみの子のためにかばんから宝物を出したときの気持ちを考えることで、相手を思いやった行動によって、相手も自分も温かい気持ちになることに気付かせる。</p>		

4 学習指導過程

避 導 入	基本発問と予想される児童の反応	指導・援助
展 開 前 段	<p>1. アンケートをもとに、課題をつかむ。 ○あたたかい心ってどんな心かな。</p> <p>2. 課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">あたたかい心とは、どんな心だろう。</div> <p>3. 資料を読んで、考えを話し合う。 ○ねずみくんを見たとき、くまくんはどう思ったのかな。 ・ねずみの子が大変だ。 ・くらくてこわいだろうな。さみしいだろうな。 ・今すぐ行くから待っててね。</p> <p>◎「ええい」とかばんから宝物を出したとき、くまくんはどんな気持ちだったかな。(役割演技) ・ええい。ねずみくんのことを助けるために、置いておこう。 ・ええい。ねずみくんのほうが大切だ。 ・ええい。ぼくしか助けられないんだ！ ・宝物も大切だけど、ねずみくんの方が大切。ねずみくんは、今のぼくしか助けられないから！</p> <p>○ねずみくんからどんぐりをもらったとき、くまくんはどんな気持ちになったでしょう。 ・ええ、いつの間に持っていたの。 ・うれしいな。 ・ありがとう。大切などんぐりを持っていてくれたんだね。 ・ありがとうの気持ちが伝わったよ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">あたたかい心は、あい手のことを思う心。 あい手を思いやって行こうすると、ぼくもわたしもうれしい気持ちになる。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前アンケートを表やグラフに表すことで視覚化し、課題へと繋げていく。 (自己理解) ・紙芝居(ペープサート)を使って、範読を行い、視覚的にも理解できるようにする。 ・範読を聞きながら、「自分もそう思う」「どうして?」を見つけ、発表を通して話し合う場面を絞る。 ・大切な宝物がかばんに入っていることを押さえておく。 ・ねずみの子の不安な気持ちを押さえておく。 (他者理解) ・「ええい」の後に、どんなことを心の中で思っていたかを考えさせる。 ・教師がねずみ役、児童がくま役となって役割演技を行う。教師が「大切な宝物なのに、どうしてそれを置いてまで助けてくれたの。」と言うことで、相手の気持ちに寄り添い行動するくまくんの気持ちに気付かせる。 (価値理解) ・価値に繋がる「ねずみくん」というワードに意識が向くように、板書で押さえる。 ・「どんぐりをもらったからくまくんはうれしかったのかな。」と問うことで、どんぐりではなくねずみの子の気持ちがうれしかったことに気付かせる。
展 開 後 段	<p>4. 自分とつなげる。 ○今までの生活を振り返ります。自分が相手の気持ちを考えてできたことやできなかったこと、またあたたかい心で接してもらったことを思い出し、今どう思うかを書いてみましょう。 ・ぼくは、今までなかなか友達のことを考えて行動することができませんでした。○○さんは、いつもぼくが困っているとき、優しく声をかけてくれるので、ぼくも○○さんみたいに困っている人がいたら、優しくしたいと思いました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の気持ちを考え行動した場面を挙げ、振り返りの視点を児童の日常に向ける。 (自己理解) ＜視点1＞ 自分の生活を振り返り、相手の気持ちを考えてできたことやできなかったこと、自分が今までしてもらったことは、どんなことかを考える。 ＜視点2＞ 今どう思うか考える。 ・今までの自分を振り返って、発表する。
終 末	<p>5. 教師の説話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生との交流から、児童の温かい姿を見付け出し、紹介することで、これからの実践意欲を高める。